

一般社団法人山梨県警備業協会

第10回 令和8年度 青年部会定時総会

令和8年6月12日（金）午後4時から、甲府商工会議所2階会議室において、第10回令和8年度山梨県警備業協会青年部会定時総会が開催されました。

今回、青年部会発足10周年に当たり、今後の警備業の発展を見据えた活動に期待が寄せられるところであり、各種活動に加え記念講演会の開催等が報告されました。

また、令和7年度の事業及び決算報告の承認と令和8年度の事業計画及び予算案が決議されたほか、古屋雄司幹事（山梨ジャパンパトロール警備）の退任に伴う役員の選任が行われ、古屋氏の後任役員には、村松祐希氏（昭和総合警備保障）が選任されました。

新役員は次のとおりです。

【部会長】秋山一也（タスクマスター）

【副部会長】飯島 亮（SGS）、浅川 実（山梨県警備業協会）

【幹事】内藤好美（ひまわり警備）、岡本ともみ（峡西警備保障）、村松裕希（昭和総合警備保障）

【監事】久保島敏（甲府警備保障）



秋山一也 部会長

秋山部会長はあいさつで、「青年部会発足から10年、これまで続けてきた活動は全国的にも非常に優れているという評価を得ているところである。今、国では次世代に必要な業種に警備業が選ばれたことで様々な政策によって警備員の労務単価の引き上げや省力化投資促進プランなど国が警備業を後押ししているが、警備業の未来を考えた時、こうした国の政策に対し、業界がどういった対応をとるべきかが非常に大事になってくる。青年部会の役割としては、常に最新の情報をしっかり取得した対応をとることはもとより、現場で働く警備員の大変さを考えた賃上げを実現するための活動や適正な価格設定を行っていくことが重要であり、警備業者同士が価格を下げて争うという時代はとうに終わっている。未来を考えて政策をしっかりと進めていけるような業界となり、青年部が次の10年にしっかりとつなげ、警備業の発展と社会的地位の向上、それに見合った賃金を得られる業界として何が必要か考えながら活動を行っていきたい。」と決意を述べられました。

また、来賓として出席した山梨県警備業協会幡野美好会長は、「日本では、毎年約80万人の人口減少が続いている。こうした中、警備業のみならず多くの他種業界が人手不足となっている。警備員の賃上げを実現し、警備員の給与が年収で400万円以上となれば、警備業で働きたいという人が集まってくると思っている。これからの警備業全体が先の見える明るい業種として前に進めるよう、将来の警備業を支える皆様のお力を是非ともお借りしたい。」と述べられました。



幡野美好 協会会長



総会風景

本年度の総会では、退任される古屋雄司氏の後任として、望月智也氏（山梨ジャパンパトロール警備）が入会したほか、新たに、小林祐樹氏（日本連合警備）、工藤 博氏（都市環境整美）が入会し、新メンバーの紹介が行われました。

総会の最後には、今回青年部会を退任された

山梨ジャパンパトロール警備株式会社

代表取締役社長 古 屋 雄 司 氏

に、これまでの功労とご尽力に対し秋山一也部会長から花束と記念品が贈られました。



新役員：左から秋山部会長、飯島、浅川、内藤、久保島、岡本、村松 各役員



新部会員：左から望月智也氏、工藤 博氏、小林祐樹氏



秋山部会長(左)と退任する古屋雄司氏(右)

古屋雄司氏は、退任のあいさつで「平成 28 年から青年部会の会員として多くの勉強をさせてもらった。青年部会は若い人たちの集まりであり、非常にフットワークも良く、業界が他に認められる存在となるよう活動が続けてきたが、全てが、警備業界で生きる自身の糧となった。今後は、青年部会の顧問として、未来の警備業を見据えた青年部会の活動を側面から支援していきたい。」と述べられました。

古屋社長、お疲れさまでした。そして、これからもよろしくお願いします。



総会終了後は、甲府市内の「孫家荘」において幡野協会長及び藤井専務理事をお迎えして部会員による懇親会が開催され、警備業の未来を見据えた意見交換や、部会員相互の融和親睦が図られ、有意義な会となりました。

